



愛知県政記者クラブ・名古屋市政記者クラブ・
J S P O 記者クラブ・J O C 記者会 同時

2023 年 12 月 25 日（月）

公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会

調整課 調整・広報グループ 担当：坪井、浅野

電話：052-951-2026（代表）

ウェブサイト：<https://www.aichi-nagoya2026.org/>

公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会 第 27 回理事会の結果について

公益財団法人愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会は、本日、第 27 回理事会を開催しました。主な決議事項として、「愛知・名古屋 2026 アジアパラ競技大会スローガン及びエンブレムの決定について」が承認されました。

記

【第 27 回理事会概要】

1 日時

2023 年 12 月 25 日（月）午後 2 時から午後 3 時 30 分まで

2 場所

アイリス愛知 2 階 「コスモス」

（名古屋市中区丸の内二丁目 5 番 10 号）

【添付資料】

- 第 27 回理事会資料
- 愛知・名古屋 2026 アジアパラ競技大会スローガン及びエンブレム広報資料
コンセプトシート
選定委員一覧
制作・選定過程について
県内大学の学生へのインタビュー結果

愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会スローガン

IMAGINE ONE HEART

こころを、ひとつに。

趣旨

競技場に立つパラアスリートたち、ひとりひとりの熱い想いを、私たちは想像できること。また、想像してみようと促すことで、誰もがこころをひとつにする大会となるように言葉を開発設計しました。アジア競技大会 愛知・名古屋「IMAGINE ONE ASIA ここで、ひとつに。」と対になり、その意味をさらに深める言葉としました。

制作者



坂本 和加

ブランディングコピーライター／クリエイティブディレクター

「カラダにピース」など誰もが1度は耳にしたことのあるコピーを多数手がけている。アジア競技大会スローガン「IMAGINE ONE ASIA ここで、ひとつに。」も担当した。多くのメディアに講師出演など、本業の傍らで考えることや想像することの面白さ、日本語の楽しさを広く一般向けに伝えつづけている。合同会社 コトリ社代表。

愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会エンブレム



5th Asian Para Games
Aichi-Nagoya 2026

趣旨

アジア競技大会エンブレムデザイン構成要素を使うことで、アジア競技大会との連携を図り、パラアスリートの方々の燃え盛る熱きところを温かみのある色彩で表現しました。愛知・名古屋大会から今後のアジアパラ競技大会へ絶えることなく熱きところが繋がっていく持続性も表しています。

制作者



宮下 浩

1961年、愛知県岡崎市出身。愛知県立芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。愛知産業大学造形学部デザイン学科准教授を退任後、現在、グラフィックデザイナー。
主な受賞歴に、世界ポスタートリエンナーレトヤマ'97/'09 入選、おいしい東北パッケージデザイン展2017 審査委員賞(福島治賞)等。

愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会スローガン・エンブレム選定委員一覧

選定委員長



廣村 正彰 グラフィックデザイナー 廣村デザイン事務所 代表取締役

1954年愛知県生まれ。田中一光デザイン室を経て、1988年廣村デザイン事務所設立。グラフィックデザインを中心に、美術館や商業、教育施設などのCI、VI計画、サインデザインを手がけている。主な仕事に、日本科学未来館、すみだ水族館、9hナインアワーズ、アーティゾン美術館、石川県立図書館、名古屋造形大学、LOFTのアートディレクション、東京2020スポーツピクチャーグラム開発、WDO世界デザイン会議東京2023など。主な受賞歴に、毎日デザイン賞、KU/KAN賞、SDA大賞、グッドデザイン金賞、DSA大賞ほか。著作『デザインからデザインまで』(ADP)他。

【メッセージ】

決定案は、パラアスリートの競技にかける熱い想い、躍動感、そして協調と調和も想起させます。このシンボルとスローガンが私たちを結びつけ、アジア・アジアパラ競技大会を通して、誰もがパラスポーツ競技の魅力を共有できることを期待しています。

選定委員



伊藤 豊嗣 グラフィックデザイナー 名古屋造形大学 学長

1958年三重県生まれ。1981年三重大学教育学部美術科卒業。1984年デザイン事務所設立。主な受賞歴に、公益財団法人日本グラフィックデザイン協会(JAGDA)ポスター大賞1993、JAGDA新人賞1994、第15回ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ1996銅賞(ポーランド)、平成14年度名古屋市芸術奨励賞、上海万博(2010)・国際ポスターコンペティション名誉賞、第62回全日本広告連盟名古屋大会(2014)シンボルマークコンペ採用、Poster Stellars 2022第2回国際ポスターコンペティション Political部門銅賞(アメリカ)他。

【メッセージ】

この大会にけるアスリート、関係者、観客の熱い気持ちがひとつになることを炎で力強く表現しているエンブレムとアジア大会との一体感の想いをこめたスローガンの連動でアジアパラ大会が盛り上がることを期待したいです。

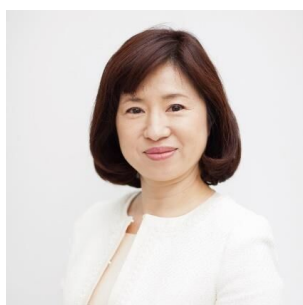


田口 亜希 公益財団法人日本財団パラスポーツサポートセンター 推進戦略部ディレクター

パラリンピック射撃元日本代表。アテネ、北京、ロンドンと3大会連続でパラリンピックに出場。アテネでは7位、北京では8位に入賞。2016年オリンピック・パラリンピック招致活動では最終プレゼンターを務め、また2020年オリンピック・パラリンピック招致における国際オリンピック委員会(IOC)評価委員会ではプレゼンテーションを行なった。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、聖火リレー公式アンバサダー、選手村副村長としても大会を盛り上げた。日本パラリンピック委員会運営委員、日本オリンピック委員会理事も務める。

【メッセージ】

スローガンをもとに愛知・名古屋アジアパラ競技大会がアスリートや関わる多くの方々そして観客の皆様の想いを一つにし盛り上がることを期待しています。そして生み出されたレガシーが2026年以降も続き、そのポジティブな記憶を想起させるエンブレムとなると思います。



田中 里沙 事業構想大学院大学学長

広報・広告・マーケティングの専門誌「宣伝会議」の編集長、取締役編集室長を経て、2016年に地方創生と新規事業の研究と人材育成を行う、学校法人先端教育機構「事業構想大学院大学」(名古屋校はJRゲートタワー27階)学長に就任。企業や自治体、他大学との連携による新事業、イノベーション、地域ブランディング等を企画し、推進する。「クールビズ」「育業」ネーミング、東京2020エンブレム、大阪・関西万博キャラクター、G7広島サミットロゴ等の審査員、政府広報アドバイザーのほか、審議会委員を務める。三重大学理事(広報・ブランディング担当)

【メッセージ】

全ての方が力を出し合い、楽しみながらチャレンジをしていく際の原動力になるエンブレムとスローガンを選出することができました。親しみ、愛し、活用していただけたら嬉しいです。希望を胸に、共に進んでいけますよう祈念しております。

選定委員



大島 健吾（陸上）名古屋学院大学AC 所属

愛知県瀬戸市出身。生まれつき左足首から先が欠損。高校時代はラグビー部に所属し日常生活用の義足でプレー。高校2年次、パラアスリート発掘イベントで競技用義足を体験したことがきっかけで、大学入学後に陸上競技を始める。2020年、2021年とアジア新記録を更新し、2021年東京パラでは混合4×100mユニバーサルリレーで銅メダルを獲得。

【メッセージ】

色んな人の色んな意見や考え方を聞き、知り、考えたうえで、今回のスローガンとエンブレムは伝えやすくわかりやすいものを選定できたと思っています。これが愛知・名古屋で開催されるアジアパラのスローガンとエンブレムの正解だと、僕は感じています。



加治 良美（カヌー）NTP名古屋トヨペット株式会社 所属

愛知県岡崎市出身。中学2年生の時に交通事故で両足を切断し、その後、リハビリの医師に紹介されて車いすマラソンに取り組む。34歳の時にカヌーの関係者に誘われて競技を始め、2019世界選手権、2021東京パラ、2023杭州アジアパラにも出場を果たした。

【メッセージ】

選定に迷ったとき、指標になったのは他の皆さんの意見でした。色んな経験をされた方々だからこそ、自分ひとりでは気が付かないことや考え方の広がりを感じることができ、今後の自分の参考になることが多かったです。このスローガンとエンブレムが世にでたときにきっとこの時のことを思い出すとおもいます。



小山 紘奈（卓球）あいちトップアスリートアカデミー / 株式会社東海理化

愛知県みよし市出身。小学3年生の時に知的障害及び発達障害（アスペルガー症候群）が判明。小学6年生の時に、元選手であり現クラブチームの代表でもある父の影響で卓球を始める。2018年第18回全国障害者スポーツ大会で金メダルを獲得、その他東海障害者卓球大会3連覇などの実績をもつ。現在、あいちトップアスリートアカデミーパラアスリート部門アカデミー3期生として活動中。

【メッセージ】

自分の推しの案と違ったり商標など難しいことも多かったですが、最後にはみんなの想いが反映されたものになったと思います。自分の意見を伝えたり他の方の意見を聞くことができたことは、私にとってとても貴重な経験となりました。私を委員に推薦してくださった方々、サポートしてくださった方々に感謝いたします。



佐藤 圭一（トライアスロン・バイアスロン・クロスカントリースキー）

株式会社セールスフォース・ジャパン 所属

愛知県名古屋市出身。先天性形成不全による左手関節部欠損の障害を持って誕生。長野パラリンピックで日本人選手の活躍を観て、自身も競技者として歩む決意。2005年5月に1年間単身カナダへ。帰国後は数々の大会で経験と実績を積み、2010バンクーバー・2014ソチ・2018平昌・2022北京パラリンピック出場も果たした。

【メッセージ】

選定委員みんなで、ところをひとつにして決めることができました。パラアスリートの燃えるような熱い想いと、周りの方のサポートがあって、誰もがところをひとつにできる。そんな大会になることを願っています。



廣瀬 誠（柔道）愛知県立名古屋盲学校

愛知県西尾市出身。高校生の時、病気で視覚障がいとなる。組んでしまえば障がい前と同じようにできる好きだった柔道が当初の心の支えとなった。アテネ、北京、ロンドン、リオのパラリンピック4大会出場。「障がいは不便だけど、不幸じゃない」ことをその姿で子供にみせたいという思いで最後のリオに臨み、アテネ以来となる銀メダルを獲得し引退。障がいは失うものだけでなく、得られるものも大きいと感じ、教職の傍ら、パラスポーツの普及・啓発、障がい理解促進の活動を行っている。

【メッセージ】

決定案以外にも素晴らしい案があり、意見が別れることもありましたが、最後に選定委員の総意として決まったのが、このスローガンとエンブレムです。このシンボルが多くの皆さんに届き、大会を成功に導いてくれることを願っています。

パラ大会スローガン・エンブレムの制作・選定過程について

2023 年 9 月 8 日	第 25 回理事会 ■知的財産の制作に係る基本方針の決定
2023 年 10 月 19 日	第 1 回制作検討委員会 ■制作方針 アジア大会との一体感を創出するため、アジア大会スローガン及びエンブレムの制作者と制作検討委員会、組織委員会との協働討議により制作を進める方針とする
2023 年 11 月 15 日	第 2 回制作検討委員会 ■制作コンセプトの策定 「愛知・名古屋 2026 アジアパラ競技大会を契機に愛知・名古屋から共生社会やパラスポーツの新しい方向性を発信」 ■制作者の決定 スローガン：坂本 和加 エンブレム：宮下 浩 ■関係者の意見を十分に反映する機会について ・制作者による、東京 2020 大会でパラリンピックの運営を経験した有識者へのヒアリングの実施 ・パラアスリートを選定委員に起用 ・大学生へのインタビューを実施
2023 年 11 月中旬	制作者による、東京 2020 大会でパラリンピックの運営を経験した有識者へのヒアリング（2回）

2023 年 11 月 29 日	第 3 回制作検討委員会 ■ 制作者から提出された複数の候補案から 選定委員会で選定を行う候補案を決定 → 商標調査開始 ■ 選定委員会の人選案 制作検討委員会委員に加えパラアスリート を起用
2023 年 12 月上旬	幅広い意見を選定の参考として活用するため、大学生へインタビューを実施し、選定委員に共有（県内大学 2 校）
2023 年 12 月 13 日	第 1 回選定委員会 ■ 制作コンセプトに基づく候補案の選定に必要な考え方を整理した基準案及び手順について討議
2023 年 12 月 19 日	第 2 回選定委員会 ■ 選定基準及び手順の決定 ・「一体感」、「開催地のアピール」、「選手の熱意」、「国際性」、「親近感」について評価に反映 ■ 理事会に提出する最終候補案の選定 ・スローガンとエンブレムの組み合わせによる評価を実施

県内大学の学生へのインタビュー

中京大学スポーツ科学部 及び 日本福祉大学スポーツ科学部

計 106 名へのアンケート結果から一部抜粋

障害のある方やパラスポーツに対して、今どのようなイメージを持っていますか
認知度が低く、メディアに取り上げられる機会が少ない。
ボッチャ等魅力的な競技があるが、知名度が低いのもっと広げていくべき。
人々に勇気を与えるというイメージがある。
共生社会において重要なもの。
今も様々な取り組みが行われている。これからの未来に期待したい。
スポーツをするにも不自由なことが多くて準備が大変そう。
パラ特有のルールがあり、観るスポーツとしておもしろい。
メディア露出が少ないため、もっと取り上げるべき。
感覚が健常者よりも研ぎ澄まされており、驚くようなプレイが生まれる。
健常者が行なうスポーツと何ら変わりのないスポーツであると思っている。
パラスポーツは多様な人々を繋ぐことができるというイメージがある。
まだ少し悪い偏見を持ってしまっていると思う。
スポンサーがあまりお金をかけない。そもそもスポンサーがいないこともある。
簡単に大会等を開催できない。
練習場所や競技人口が少なく、環境が整っていない。
真剣勝負をしていてとても勇気を与えてくれるイメージ。
パラスポーツは自分が今持っている力を最大限に活かした競技である。
まだ世の中で十分な理解を得られていないと思う。
もっと魅力を発信し、パラスポーツによって障がいへの理解を深めていくべき。
テレビ中継やインターネット配信等が少ないイメージ。
とても高いスキルや精神力を持ち、レベルが高い競技である。
社会的に認知はされてきているが、まだ完全に理解されてはいない。
SNSでの発信が少ない。
パラスポーツは実際に体験してみるととても難しい。

パラスポーツの持つ魅力や可能性とは、どのようなものだと思いますか

いつかオリ・パラの境界がなくなり、ユニバーサルスポーツが普及すること。
障がいのある方にとっての生きがいや目標となる存在。
パラスポーツの魅力は、障がいのある人もない人も誰もが一緒に楽しめること。
パラ独自のルールでどこまでも発展していける。
健常者と変わらないパワーでスポーツをする姿は、迫力があってすごい。
同じ障がいを持った方に勇気を与えることができる。
年々注目度は上がってきており、観る人がもっと増える可能性を秘めている。
当たり前や固定観念、できないであろうという考えを覆すことができる。
障がいが原因で後向きな気持ちになりがちな人を勇気付けることができる。
パラスポーツは障がいに対する偏見を減らすことにとても役立つものだと思う。
義足を存分に活かしたプレイや車いすでのターン等のテクニックが魅力的。
スポーツを通じて人々が多様性について考えるきっかけになる。
障がいを持つ子どもたちに夢や希望を与えることができる。
選手一人ひとりにストーリーがある。

アジアパラ競技大会及びアジア競技大会がどのような大会となることを望みますか

大会の影響を受けてパラスポーツ教室が増えてほしい。
障がいのある人がスポーツを始めるきっかけとなるような大会。
大会をきっかけにパラスポーツに興味を持つ人が増えることを望む。
大谷翔平さんのようなスーパースターが生まれてほしい。
テレビで大々的に放映される。
愛知の魅力を発信できる大会。
多くの人に関わり、良い社会をつくることに繋がるような大会。
多様性を認め合うことについて、日本含めアジアがその先駆けとなるような大会。
アジア全体の競技力の向上やパラスポーツへの理解がより高まる大会。
違反のない公正な大会となることを望む。
世界的に注目され、アジア以外にもたくさんの人が観に来るような大会。
愛知・名古屋が盛り上がるような大会。
大きな事故や事件がないことが第一です。
パラ競技大会にもアジア競技大会と同等のスポットが当たるような大会。
障がいのある人への接し方、感じ方が変わるような大会。
選手が思い切りプレイすることができ、その姿に元気やパワーをもらえる大会。
スポーツを通じて人々が繋がれる大会。